

平成29年度 学校自己評価報告書

1 地域との連携・協働による教育

考察等	◎個々の保護者との信頼関係を重要視している。学校支援地域本部として取り組みも定着し、学校支援コーディネーターとの連携や学校運営委員会への関心など、地域の方々との協力も大切にしている。子どもの成長やよりよい教育活動を実践するために、保護者との連携や地域人材の活用などが重要であると考えている。 ○ P T A や地域との連携や協力に対して受け身の傾向がある。
改善策	○ P T A 活動や地域行事の開催の周知をさらに徹底するとともに、保護者や地域の様子を把握し、子どもの成長につながるよい機会と捉えて、可能な限りの協力を促す。

2 「世田谷9年教育」で実現する質の高い教育の推進

(1) 学習指導

考察等	◎新学習指導要領の内容を意識し、生徒自身がアクティブに取り組んでいる授業がほとんどである。「主体的・協働的な学習」をテーマに研究を継続している成果である。 ○教材研究や指導方法工夫改善に対する意識をさらに高めていく必要がある。
改善策	○知識や技能を徹底させる場面(展開・時間)と習得したことを活用する場面(展開・時間)を明確にし、少なくとも単元に一回は対話的な学習を位置付け、実施する。

(2) 特別活動・学校行事

考察等	◎学校行事への取り組みの意識の高さは伝統となっている。縦のつながりも意識を高めている要員の一つとなっている。生徒自らが考え、行動する場面を多く設定することで、生徒の自己有用感が高まり、達成感や充実感を感じている生徒がほとんどである。 ○日頃の学級活動のさらなる充実や自治活動による生徒の実践力の伸長をめざす。
改善策	○「学級づくりは、人間関係づくり」を徹底し、いじめや不登校の未然防止と対応力の強化を図る。また、生徒会活動における集団活動、校内や地域でのボランティア活動を通して、学校及び地域社会の一員としての自覚を高める。

(3) キャリア教育・進路指導

考察等	◎キャリア教育の系統性を見直し、各段階で取り組む内容を明確にした。教育課程に位置付け、計画的に進めている。教職員のみならず、保護者、生徒からも評価されている。
-----	---

(4) 世田谷9年教育

考察等	○世田谷マネジメント・スタンダードに基づいた学舎の小学校との学力向上のための連携も定着してきたが、まだ明らかな成果を共有するには至ってはいない。
改善策	○次年度より小学校2回、中学校1回計3回の研究授業を年度ごとに実施する。互いの長所や課題を話し合い、迅速な改善につなげ、研究主題に沿った児童・生徒の育成する。

(5) 特別支援教育

考察等	○個々の生徒の特性を把握し、寄り添った指導を心掛けてはいるが、それが生徒のニーズに応えた最適な対応であるかは自信がもてていない。裏付けが必要である。
改善策	○研修等を通して、発達障害への理解を深めるとともに、インクルーシブ教育や合理的配慮について実践的な対応を校内委員会等で検討し、組織的な対応を徹底する。

3 信頼と誇りのもてる学校づくり

考察等	◎保護者や地域の意見を計画的に収集・分析して迅速な改善に努め、全教職員が授業や生徒にかかる活動を大切にし、情報発信を重要視するなど信頼される学校づくりに取り組んでいる。次年度も引き続き高い水準で取り組んでいく。
-----	---

4 安全安心と学びを充実する教育環境の整備

考察等	◎生徒にとって安心かつ安全で、充実した学習環境が整うよう点検や管理を適切に行い、教育環境の整備に努めていく。
-----	--